

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 10月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	1273100295
法人名	社会福祉法人 天祐会
事業所名	グループホーム富士見苑
所在地 (電話番号)	千葉県富津市篠部2310-3 (電話) 0439-80-4501
評価機関名	日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2007/10/9

【情報提供票より】(平成19年10月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 3 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.35 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300000 円)	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	64 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三枝病院(内科・外科) 白井歯科(歯科)
---------	----------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安心・安全・穏やかを理念に、グループホーム富士見苑では、地域の方・ボランティアの方との連携で運営を行っている。理事長が精力的に市町村からの要望に応える体制を取っており富津市からの期待が感じられる施設である。また、建物がしっかりとした木造建築で、ホームに入ってまず感じられるのが、木のぬくもりとのんびりと過ごせるまわりの環境だ。海岸まで散歩に出かけれる距離で潮風が肌で感じられようなグループホームだと感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、掲示物の充実や園芸の充実などの提案があったため、この1年間に季節感が感じられるような環境作りを行ってきた。今後は、食堂ホールをフォトギャラリーにしていくことにより、地域交流の促進を図りたいと考えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果を関係者で閲覧の上検討し、今回の自己評価を関係者全体で行っている。自己評価を有効活用し、地域密着型サービスのあり方の基本にしたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回会議を開催しており、外部評価の改善点の見直し・事業報告・地域全体の防災訓練計画・医療体制についてなどを検討している。医療体制については、地域医療の協力体制については地域の病院と共同で訪問看護体制の確立を図り、より安心したサービスが提供できるように話し合いを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの苦情は無いが要望は多い。要望があった場合は早急に話し合いを行い、家族に連絡をした上で今後の運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会しており、班の構成員でもある。また敬老会老へも参加をしている。毎年恒例となっている芋煮会は地域の方の参加が多く、交流の場として地域の方々に認められている。その他、地域と共同で行える行事については積極的に参加している。近隣の人の訪問も多く、富士見苑が安心との評価もあり、地域からの入居者も増えてきている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として、地域での穏やかで安心して安全な暮らしの提供を掲げている。また、法人本体の目標でもある既成の概念を打破し、利用者の求めに応えられるサービスの提供を行い、地域の方から愛される施設づくりを行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や朝礼で繰り返し理念については話し合いをしている。施設内研修でも、全ての職員に理念が浸透することに努めている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会しており、敬老会などの行事にも参加している。区長さんと話し合いを行い、参加できるものには参加しており、地域に密着することを考えグループホーム主催の芋煮会も定期的で開催している。また、普段から地域の方の来訪も多く、安心した交流の場所にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を閲覧をしてもらい、グループホーム内の評価を外部に発信するいい機会と考えている。改善項目に対しては、謙虚に受け止め、臨機応変に対応し、職員全体で改善に向けた取り組みをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回話し合いを行っている。外部評価の改善点の見直し・事業報告・地域全体の防災訓練計画・医療体制についてなどを検討している。		

【千葉県】GH富士見苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	富津市の介護保険計画を推進するためのメンバーの一員であり、定期的に市と交流する機会を持ち、情報を交換することが多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回新聞を発行してグループホームでの生活状況を報告している。生活状況に変化が見られた時は、随時連絡をしている。また、ケアプランの実施状況なども来訪時に必ず報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は無いが要望は多い。要望には迅速に対応し、グループホーム自体の運営に反映させている。苦情・意見・相談・要望申出書が玄関に備え付けてあり、家族等からの意思を汲み取る仕組みが出来ている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での人事異動が行われることがあり、適切な人事配置を心がけており異動時の引継ぎにも時間もかけている。理念に基づき一環したサービス提供の徹底を図っているため、入居者にとっての生活の影響は少ない。		人材育成や組織の活性化のために人事異動は有効である。それによってサービスの質が変化することはない様に留意されているが、入居者との「心」のよりどころに目に見えないサービスの質の低下や不安を感じている可能性がある。異動前に家族を含め連絡を密にすることにより、生活の影響を最小限にする様に努め、より満足度の高いサービス提供がなされる事を望む。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の場合は、法人内の新人研修を全員受講している。また、早期育成を図るため、業務に慣れるまではマンツーマンで指導している。外部研修に参加した場合は、受講者が研修報告を行い、職員全体で研修内容に関して周知徹底を図りサービスの質の向上を目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、連絡会は発足していない。市町村から連絡会設立の要望が有り、今後、当グループホームが中心となり連絡会を発足し、連絡会を設立・運営し、富津市全てのグループホームのサービスの向上につなげたいと考えている。		早い段階での連絡会設立を期待すると共に、連絡会の機能が有効活用され、地域全体のサービス水準の向上につながることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には、必ず体験入居をしてもらっている。入居後は、入居者の環境変化に配慮し本人が孤立しないように職員がその人の立場になって対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の今までの生活歴を確認し、出来なかった事ができた時は互いに喜びを分かち合っている。また、入居者の昔の話を聞いたり、何か手助けをする度に、「ありがとう」と言われるとうれしくなり、仕事の励みになると共に学びにもつながっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用し入居者の思いや特性を把握している。入居者が変化した時には緊急会議を開き、本人や家族の思いを中心に介護方法を検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いを把握した上で職員全員で検討して、介護計画を作成している。介護計画の説明もしっかりなされており、家族も納得している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは定期的に見直している。また変化があった場合はその都度関係者と話し合い、新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方々の要請を踏まえ、地域の相談窓口になれるように事業所の体制作りを行っている。その中で施設入所などの紹介も行っていきたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定については、本人、および家族の希望を優先している。通院については基本的に家族にお願いしているが、状況に応じて職員が付き添う事もある。また、入院が必要な時は、医療機関の紹介など適切な支援を行っている。今後は訪問看護との連携も図り、支援充実を目指している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで終末期を迎えることは、当然と考えており、家族の要望があれば医療機関との連携を図った上でターミナルケアを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の書類等は鍵付の書庫に保管されており、プライバシーの確保がなされている。入居者とのコミュニケーションは、相手を尊重し、おもしろい言葉かけをしたい。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースでゆったり過ごす事をモットーとしている。毎日の予定は本人の希望を随時確認しながら、組み立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意・片付けも一緒に行っている。また、食事が楽しみの時間になるように、昼食時には館内放送でお昼のメニューが紹介されている。外食や出前の日もあり、また、週に2回パン屋さんが来てくれることが食の楽しみにつながっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水質は鉱泉で、11時～15時頃まで毎日入浴できる様になっている。拒否する入居者に対しても最低でも2日に1回は入るように声をかけて入浴を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることに応じて歌・輪投げ・脳トレで公文などをクリエーションとして取り入れている。入所者の希望に沿った無理のない活動を日々考えている。希望が一番多いのはドライブであり、声が上がればよく出かけている。また、本人の希望や能力に応じて食事作りや、施設内の掃除等のお手伝いをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の体調に応じて日々の外出の機会を作っている。普段は散歩で海岸を歩いたりしている。また、遠方へのドライブなども随時企画し、実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は無く、玄関も開放している。職員がしっかり見守る中で自由に過ごして頂いている。		

【千葉県】GH富士見苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は2ヶ月に1回行っている。緊急避難場所は、施設の駐車場になっている。地域災害も法人内で対応できるように体制を整えている。また、会議においても緊急連絡網の確認も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作りにも栄養の確保を心がけている。また、入居者ごとの状況に応じて必要なものを提供している。食事の記録簿でしっかり管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂がカウンター形式になっており職員と入居者が向かうことによってコミュニケーションが取り易くなるように工夫されている。照明もおしゃれで、かつ工夫されており状況に合わせて使い分けができるようになっている。天井が高く広々とした空間がかもし出されており、ゆったりと過ごせる雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室と洋室タイプの2種類がある。馴染みの家具を持ち込むことができると共に、カーテンも防災限定で好みの物を使うことができ、本人にとって居心地の良い空間作りが成されている。		